この競技はフィクションです☆

青木弘樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

この競技はフィクションです☆

【Ｎコード】

Ｎ２４３６Ｑ

【作者名】

青木弘樹

【あらすじ】

劇中に出てくる競技は実際には存在しません。主人公レイジの奮闘ぶりを皆さん応援してやってください。

作：青木弘樹

豊田レイジ：主人公
本田丈太郎：主人公のライバル
鈴木軽子：主人公の片思いの女性

「くそ…また負けた…！」
悔しがるレイジ。表彰台で笑顔で喜ぶ丈太郎。
「ジョウめ…」
ジョウとは本田丈太郎のこと。昔からのライバルだ。小学校も、中学校も、高校も、ずっと一緒だった。
俺はまた負けた。負けっぱなしだった。
西日本自転車レース大会。全長３キロのコースを１０周するこのレース。
あいつは１位。俺は９位。文字通り完敗だった。１０人で走って９位。なんと情けない…。
俺の数々の負けの歴史をひも解いてみよう。恥を承知ですべてをさらけだそう。
小学生のとき、俺はあいつと同じ卓球部だった。しかし、あいつにはいつも負けていた。他のやつには勝てるのにあいつには勝てない。
悔しいから、あいつの家のポストにピン球をたくさんつめてやったのは、今となってはいい思い出だ。いや、悪い思い出かな…。
走り幅跳びでも、走り高跳びでも、俺はやつに負けていた。給食の早食いでも負けていた。

悔しいから、あいつの家のポストにカビの生えたパンをおいてやったのは、今となってはいい思い出だ。俺はやることがせこいか…？なんでもいいや。

中学校では、同じ水泳部だった。ここでも俺は負けていた。しかしやつもそんなに水泳が得意だったわけじゃない。ジョウも俺も大会に出ることもなかった。

これについてはそんなに悔しくないので、いたずらはしなかった。

ただある日、買い物するときに１０円が足りず、しかしやつはお金を貸してくれなかった。そのときは腹いせに自転車のタイヤをパンクさせてやったことがあった。俺が自転車レースで勝てないのは、この時に呪われたのだろうか？

高校ではクラブには入らなかった。どうも俺は運動に向いてない気がしたので勉強を頑張った。

大学に行って、いい会社に入って、かわいい奥さんをもらって、そんな人生をなんとなくだが想像していた。

あいつは剣道部に入っていた。あの胴着が気に入ったらしいが、俺には分からなかった。まあ誰が何をやろうが人の勝手だ。

例えばバードウォッチング。いったい何が面白い？しかし非難してはいけない。趣味・趣向・価値観は人それぞれ。なんでも好きな人にしか分からない魅力があるのだろう。

それにしても…いったい何が面白い？？ま、いっか…。

一応、あいつは県大会でベスト８まではいったらしい。まあ…まあまあだな。

あいつは卒業後、就職した。自転車屋に就職したんだ。俺はというと…俺は大学に受からなかった。いや、正確に言うと国立は落ちた。私立は受かったが、私立は授業料が高い。親に気を使った俺は就職することにした。

知り合いがバイクの部品屋の店長をやっていて、そこに就職した。別にバイクには興味なかったが、せっかく声をかけてくれたんで働くことにした。

まあ、そこからは可もなく不可もない…そんな人生だった。仕事はぶっちゃけ楽だったが、給料が安かった。彼女もなかなか出来なかった。

そんな時、あいつはやってきた。ジョウだ。

ジョウは自転車の魅力に取り付かれたらしい。そして話を持ちかけてきた。

西日本自転車レース大会というものがあるらしい。7～8年くらい前に西日本の自転車屋と自転車愛好家たちが資金を出し合って主催している大会らしい。一年に2回、大会を開くそうだ。

大会に出るのに特別な資格はいらないが、参加費はいる。優勝者には全国の自転車屋で使える金券5万円分。しかも俺が勤めるバイクの部品屋でも使えるらしい。

部品屋の店長の奥さんの兄貴の奥さんの妹が（ややこしいな…）自転車愛好家で、そのしがらみで金券を使えるようにしているらしい。店長は自転車には興味ないけど。

まあ俺も働いているうちにバイクに少し興味を持ち、バイクを買った。金券があればバイクのドレスアップも出来る。まあ遊び半分で出てやるか、そう思って出たんだが…。

最初に言ったように、俺は負けた。しかも4回目だ。あいつは初優勝だったから本当に嬉しそうだった。

しかも！何より腹立たしいのは高校のときナンバーワンといわれていた憧れの鈴木軽子とつきあっていることだ！断じて許さん！てめえの血は何色だあ！（とか言ってみる）

こうなったらやるしかない！

次の大会は絶対勝ってやる！半年間、みっちり修行してやるぞ！

オラ、頑張るぞ！

そして…

「はあはあ…」
半年後。俺は大会で走っていた。目の前にはあいつ…そう、ジョウだ。
「くそう…」
あいつはいつも俺の邪魔をしやがる。１０円の金も貸してくれないケチなやつめ。
あいつの背中を追いかけるのはもううんざりだ。この半年間、筋トレ、ランニング、３９８００円で買ったマウンテンバイクでの練習。そのすべてが無駄になるのは嫌だ。仕事の合間をぬってのトレーニングの日々が水泡に帰すのはごめんだ。
俺は軽く息を吸い込んだ。負けるわけにはいかない。勝った所で憧れの鈴木軽子が手に入るわけじゃない。そうじゃない。これは戦いだ。戦争だ。ジーク・ジオン！（深い意味はない）
ちなみに軽子の愛車はワゴンＲだ。
ちなみに軽子の飼っている猫の名前はアルトだ。
ちなみに軽子の３サイズは８４・６０・８５だ。
ちなみに軽子の働く喫茶店は営業１８年の老舗だ。
俺はストーカーか？いいや違うね。そもそも好きな女性のことをある程度調べたりするのは当たり前の行為だろ？いちいち横文字でちょっとしつこいやつを悪者扱いしないでほしいね。
そんなことより…俺は気合を入れた。勝負だ！男と男の勝負だ～！
ゴールラインまではあと５００メートル。俺は筋肉が悲鳴をあげるほどペダルをこいだ。
いけ！己の限界を超えるんだ！スーパーサ●ヤ人のように静かなる怒りを燃やすんだ！
徐々に縮まる距離。ジョジョもびっくりだ。風だ。風になるんだ。
ゴールラインまであと３００メートル。やつも少し焦ってる。
ゴールラインまであと２００メートル。すごいぞ！やつと並んだ！やれば出来る子。どっちかって言うと褒められて伸びるタイプなんだな。

ゴールラインまであと１００メートル。俺はやつを抜いた！やったぞ！己の限界を超えたんだ！
ゴールラインまであと５０メートル。やつは俺の背中を見ている。いままでにない光景だ。
そして…
”ゴール！本田丈太郎、二度目の優勝で～す！”
？？？？？？？
ふっ…そうさ。俺は実は周回遅れだったのさ。３周目で大きく転んじまってな。
結果は８位。前回よりひとつだけ順位を上げた。
ふふふ…人生は厳しいな。
政治家が選挙に受かるまで、さんざん媚びへつらう理由が分かる気がしたぜ。
アイドルが売れるために顔面が引きつるまで笑顔をつくる理由が分かる気がしたぜ。
勝ってなんぼ、売れてなんぼ、それが資本主義ってもんだ。
まあ…いいんだよ、負けても。
別に気にしちゃいない。
ほんとだよ。だって…
この競技は…フィクションなんだから。
それを言っちゃあ、おしまいよ～。
おしまい☆

（後書き）

ありがとうございました。他の作品もよろしくお願いします☆

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2436q/

この競技はフィクションです☆

2011年1月18日16時10分発行